



新毎日

発行所：大阪市北区梅田3丁目4番5号 〒530-8225 電話：06(6345-1551)
編集局：〒530-8225 06(6345-1450)
毎日新聞大阪本社 毎日新聞社 2004

洞窟学を語る

大阪経済法科大学の沢敷教授ら8人の研究者が「洞窟学4ヶ国語(英日韓中)用語集」(大阪経済法科大学出版部刊)を発刊した。洞窟学に関するこの種の用語集は世界でも珍しいという。洞窟と聞いても、宗教者の修行の場とかスペイン・アルタミラの動物壁画くらいしか思い浮かばない身には、同書がどんな意味を持つのかチンパンカンパン。発刊を機に洞窟学全般にわたって、沢さんに教えてもらった。

【編集委員・菅沼完夫】

論

懸け離れた神秘的な洞窟の世界を若者たちに理解してもらおうと思ったのですが、関心は高い。(最近の学生に多い)講義中の私語や雑談も少ない。洞窟研究は、何も地質学だけでなく地理・生物・民族・考古学など多方面に広がっています。それらを知ってもらうため映像を使った講義のほか現地研修なども行っている。学生の中から後継者が育ってくれば、と期待しています。

——世界の洞窟学はどんな状況にありますか。
◆満足すべき状況ではない。例えば、火山洞窟の形成、形態に関する写真資料はあるが、プロセスのモデルや洞窟を構成する成分の分析報告例が少ない。また、溶岩学、洞窟探検・測量、洞窟写真の作成についてのマニュアルが完成していない。

さらに、国際化時代に対応した洞窟学のためには基礎資料として用語の整理が必要です。今回の用語集で一部補完したが、今後も努力が求められている。

——洞窟学は人間にとってどんな意味がありますか。
◆洞窟は特殊なものと思われがちだが、地球、ひいては人間の成り立ちを考えるうえで欠かせない存在だ。火山洞窟に限っても、その研究を通して火山活動の原点を理解できる。そして、前にも述べたように洞窟は実に魅力に満ち、その中にいると自然に自分と向かい合う気持ちになる。そんな体験を学者だけでなく、一般の人にも味わってもらうため「洞窟観光」も、もっと普及させたい。

用語集はどんな目的で作ったのですか。

◆洞窟学の用語はアジア圏では不統一・断片的なまま使用されている。それらを整理・補完した。文字・文化・習慣などが類似している日本、韓国、中国の用語を比較したことによってその関連性も明らかにすることができたと思う。さらに、世界各地の洞窟写真や独自に考案したモデル図も掲載し、洞窟の形態について理解を深められるよう解説も付した。洞窟学を目指す若手研究者の役にも立つはずだ。

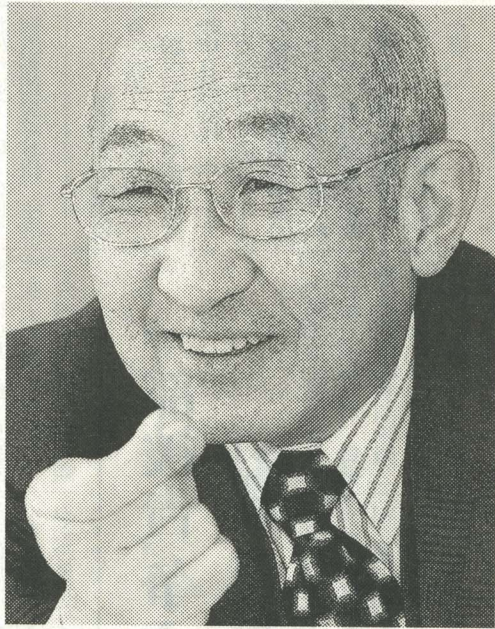
——沢さんのそもそもの専攻は半導体工学。なぜ、洞窟学に興味を持ったのですか。
◆一人の人間としては未知の世界を知りたかった。学者の立場からは、洞窟、特に火山洞窟の形成モデルを作成したかった。地底科学の解明に役立つと考えたのです。

——洞窟には石灰岩地帯で形成される鍾乳洞のほか海の波で削られた海蝕洞、そして沢さんのご専門の火山洞窟などがあります。洞窟の魅力について話してください。

◆火山洞窟とは、噴火して発生した大量の溶岩流が表面は硬化、内部ではガスが減少しながら空

地球誕生のロマン秘め

成分分析、資料作成が課題



沢敷 大阪経済法科大学教授

さわ・いさお 65歳。大阪市出身。関西大大学院修了後、近畿大講師などを経て大阪経済法科大学教授。学生・教養部長などを歴任。工学博士。

熱意の背景に
地底研究の遅れ
視 沢さんの洞窟に
寄せる思いは熱
い。生来の旺盛な好奇心
に加え、地上、宇宙、海底

に比べて地底空間の研究
が進んでいる。完成したら
が遅れていることへの疑
問が熱意の背景にあるよ
うだ。学生だけでなく予
くり思索してみたい。同
大学出版部(0729・41
8211)へ。(菅沼

洞を形成したものです。同時に形成されたものが火山洞窟の多いのは米多、一部の祖先にとっ国、イタリクス、スペイン、では大切な住居でもあった。その古代人の心をしす。火山洞窟に限りませのこともできる。そんなが、洞窟にはロマンがああります。

例えは何十、何百年にわたって誰も入らなかつたところも多く、神秘的な雰囲気満ちている。そでは一昨年、日本で初めの暗闇の中にあると、不て洞窟学の講座「洞窟の安と緊張感を覚え、魂が離れた時の自分に思いをはせてしまうこともあ

る。洞窟は地球の誕生と学講座です。俗世間とは

学講座です。俗世間とは